

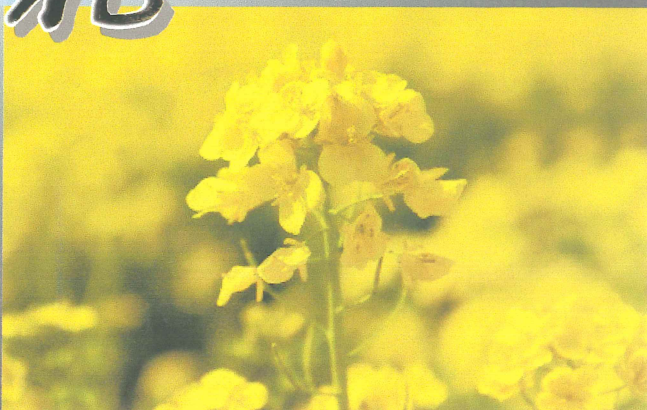
葉の花

第13号

発行日:平成22年3月1日

発行所:千葉県訪問看護ステーション連絡協議会

発行責任者:会長 権平 くみ子

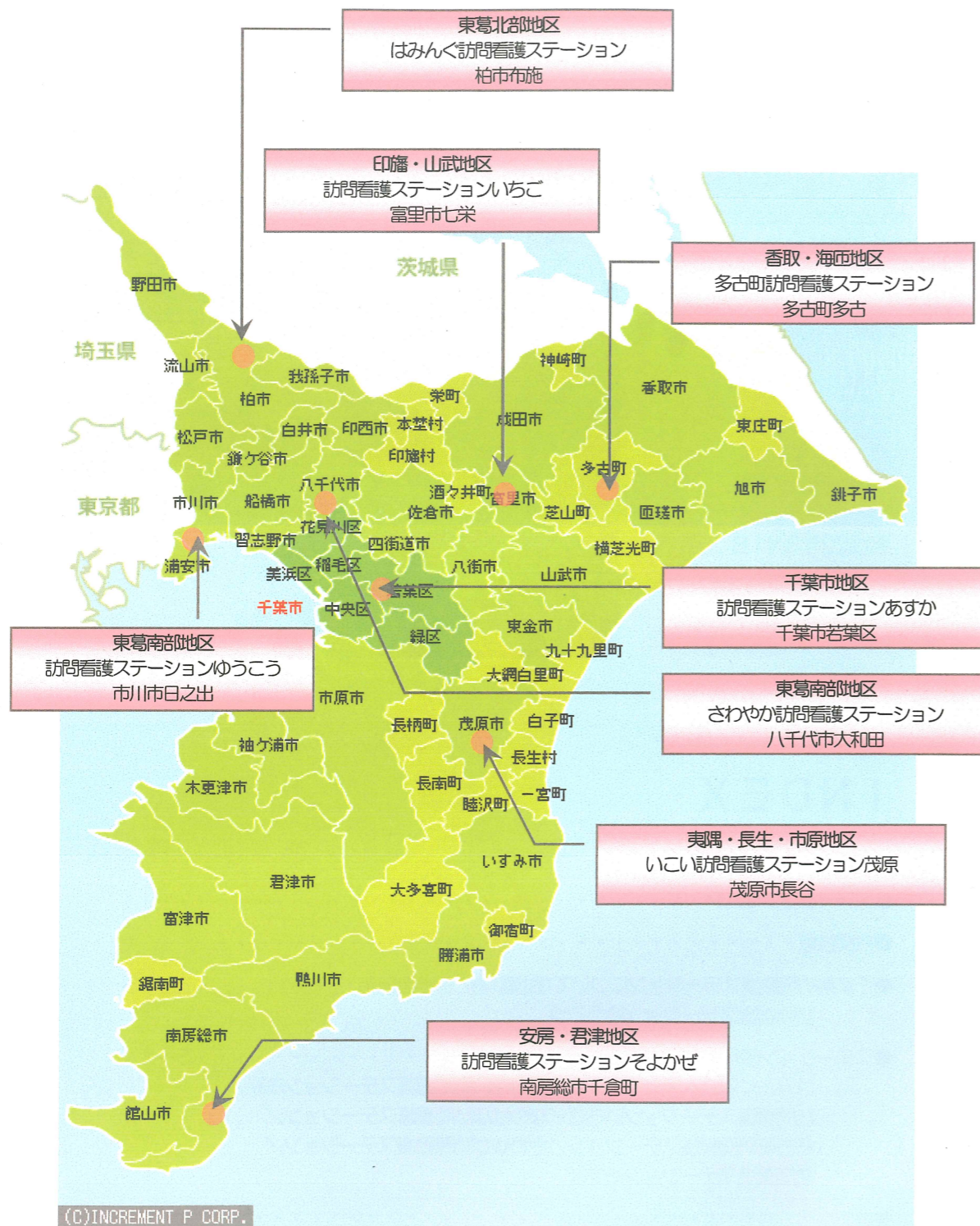


INDEX

- ステーションMAP・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 会長挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 千葉県訪問看護ステーションについて(会議計画と研修会報告)・・・・・・・・ 2~5
訪問看護ステーションゆうこう
- ステーション便り・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5~11
はみんぐ訪問看護ステーション/いこい訪問看護ステーション茂原/
訪問看護ステーションいちご/なのはな訪問看護ステーション/
多古町訪問看護ステーション/さわやか訪問看護ステーション/
訪問看護ステーションあすか
- 編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

■ステーションMAP■

*今回の広報に記事を投稿して下さったステーションのMAPです。



(C) INCREMENT P CORP.

ごあいさつ

会長 権平 くみ子

立春を迎え梅がほころび始めましたが、突然の雪で梅の花も縮みこんでしまい、まだまだ寒い日が続いています。風邪などは引いていませんか。千葉県訪問看護ステーション連絡協議会の会長を、佐野けさみ様から引き継ぎ、右往左往しているうちに気が付きましたら、もう年が明けてしまいました。挨拶が遅れました事をお詫びします。

さて、皆様もご存知のように10年後の日本は、超高齢社会・多死時代を迎えます。現在、70歳以上の高齢者が入院の半数を占めているといわれ、その内の25%は受け入れ状況が整えば入院可能だとされています。今後在宅では、さらに後期高齢者が増大し、高齢夫婦世帯・高齢者単独世帯の増加が予測されています。それに伴い認知症の高齢者・癌患者・在宅での看取りも増加すると危惧されています。

このような社会情勢の中、在宅看護の必要性が重要視されてきていますが、訪問看護ステーションの数の不足や医師も含め24時間体制の難しさ、在宅ケアチームとの連携の充実やグループホームや施設などの地域連携の不十分さなど、まだまだ医療・福祉との連携には解決しなければならない課題が多いです。

先日、訪問に向かっている途中で信号待ちをしていたら、大きなカバンを下げ、白のスポンをはいた若い女性が横断しながら、車の字(ステーション名が書いてある)を見て“べこ”と挨拶をしてくれました。見知らぬ人でしたが、一目で同業者とわかりました。(あ! 仲間が頑張っている。私も頑張らなくては)と暖かな勇気をもらいました。

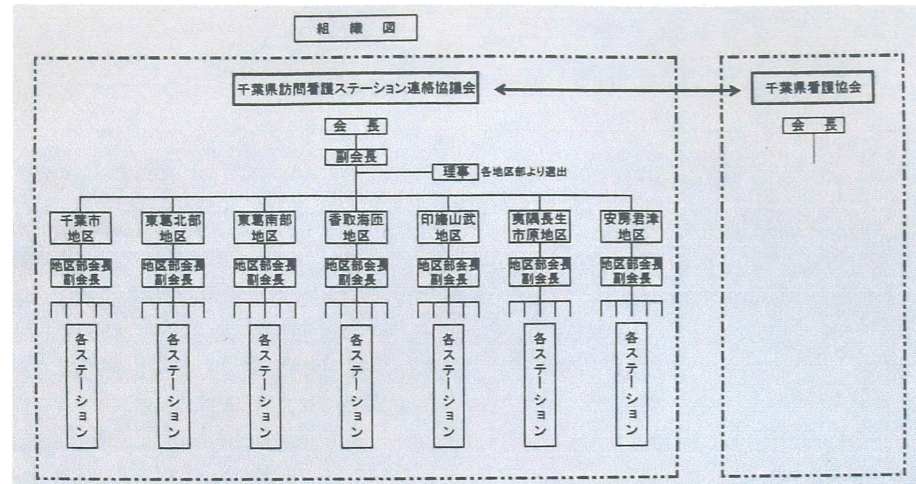
忙しく、風ごはんは車の中でおにぎりをかじるのがあたりまえとなっている日々ですが、私たちが待っている利用者さんがいて、必要とされています。また、やりがいのある職業です。まだまだ、不慣れで未熟な私ですが、副会長・理事・地区部会長の力を借り、会員の方のお役に立てるよう頑張っていこうと思っています。今後ともよろしくお願いたします。

千葉県訪問看護連絡協議会について

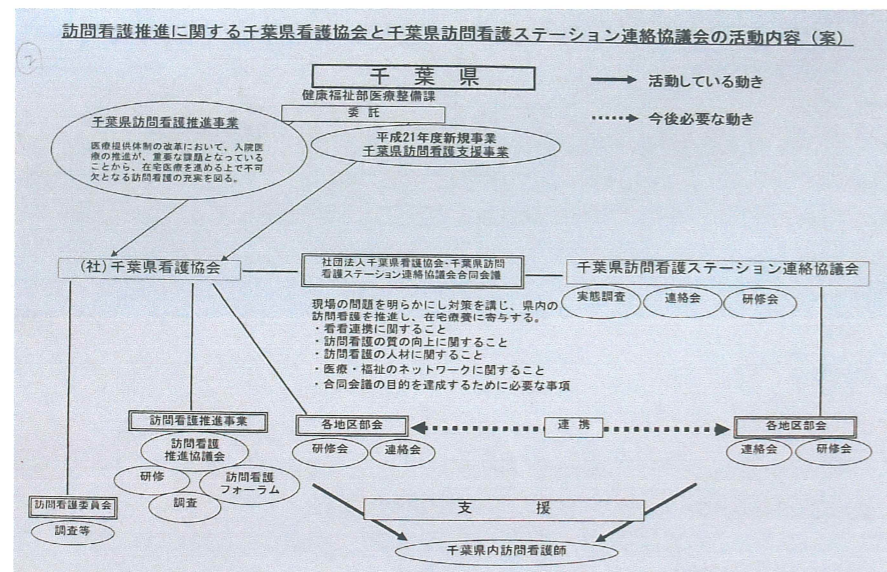
訪問看護ステーションゆうこう
泉山 明美

権平会長の下、21年5月23日、千葉県訪問看護ステーション連絡協議会総会が開催され、活発な質疑応答のもと無事終了する事ができました。協議会のあり方、不透明なところなど問題点指摘と要望がありましたので、改めて協議会活動に見直しを行い、協議会組織図・千葉県事業計画と協議会との会議の位置付け、活動内容・看護協会と協議会との活動内容等を含め報告します。

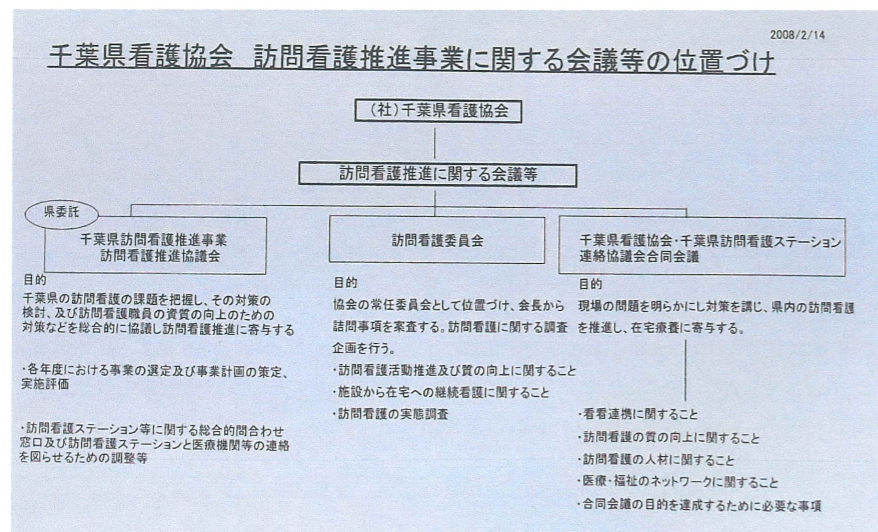
「千葉県訪問看護連絡協議会組織図」



「千葉県訪問看護推進事業に関する千葉県看護協会と千葉県訪問看護連絡協議会の活動内容」



「千葉県看護協会・訪問看護推進事業に関する会議等の位置づけ」



役員等にて分担し、それぞれ訪問看護活動を行いながらの参加です。千葉県のみではなく他の機関からの依頼（講演、モデル事業、他）があった場合、協議会として必要と判断されたものに関して引き受ける方向で考えています。訪問しながらの忙しい毎日かと思いますが、皆様ご協力のほどよろしくお願い致します。

また、定時の理事会は2ヶ月に1回、幹部会は2カ月に1回。地区部会役員と理事合同会議を年2回開催し、企画検討、問題点、情報交換、検討会等を行っています。

今回は会議状況、研修報告等の一部を報告します。



会議計画

会議の名称	委員氏名	県の担当課
千葉県介護保険事業支援計画・老人保健福祉計画作成懇談会	長谷川芳代	高齢者福祉課 (担当：企画調整班)
千葉県高齢者保健福祉計画推進作業部会	権平くみ子	高齢者福祉課 (担当：企画調整班)
千葉県認知症対策推進協議会	権平くみ子	高齢者福祉課 (担当：在宅福祉推進室)
千葉県地域リハビリテーション協議会	長谷川芳代	健康づくり支援課 (担当：健康増進課)
千葉県脳卒中リハビリテーション協議会	長谷川芳代	健康づくり支援課 (担当：健康増進課)
千葉県難病医療連絡協議会	地主貴美恵	健康福祉部疾病対策課 (担当：アレルギー・難病対策室)
在宅がん緩和ケア委員会	泉山明美	健康づくり支援課 (担当：がん・生活習慣病対策室)
千葉県がん対策推進部会	権平くみ子	健康づくり支援課 (担当：がん・生活習慣病対策室)
看護のあり方に関する検討委員会	泉山明美	健康福祉部医療整備課 (担当：医師・看護師確保推進室)

研修会報告

I：平成21年5月23日(土)

場所 千葉市ビジネス支援センター

講師・テーマ 訪問看護の質について：看護師のケアの評価
日本在宅ケア教育研究所 代表 内田恵美子先生



II：平成21年10月10日(土)

場所 千葉県ビジネス支援センター

講師・テーマ 千葉県共用脳卒中地域医療連携パス：医療と地域の連携パス。
最新の脳梗塞治療について
千葉県救急医療センター 神経系治療科部長 古口 徳雄先生



III：平成21年12月12日(土)

場所 千葉県看護協会別館

講師・テーマ 新人管理者研修
みやこ台訪問看護ステーション所長 地主 貴美恵



20名あまりの参加となり、理事など含め「訪問看護とは」「診療報酬」「介護報酬」等様々な分野からの講義を受けながらの質疑応答となり、ベテラン管理者でも食い違いの気付きや再確認となり、とても参考になったのではないかと。また、ステーションの管理者でもあり、千葉県ケアマネ協議会役員でもある小川氏を迎えて介護保険等を踏まえた討議となり、最新情報も得、有意義な時間となりました。

Ⅳ：平成21年11月21日(土)

場所 千葉県看護協会
講師・テーマ 吸引講習会・吸引実技実習



社団法人千葉県看護協会、日本ALS協会千葉県支部主催で、訪問看護ステーション連絡協議会が依頼を受け、3年目を迎える吸引指導研修となりました。

基礎的な講義から始まり、実演をメインとした講習となっています。



吸引講習のためにALS協会が開発した、ペットボトルで作成されたモデルを使用し擬似痰を作り実演。何十万もする模型よりすばしかったです。ステーションでも1個どうでしょうか？介護職でも吸引可能となりましたが、法的なもの、契約等一連の流れがまだ確立していません。

看護協会でマニュアルもありますが、当協議会としてもスムーズに進められるよう調整中です。

東葛北部地区

柏市医療公社 はみんぐ訪問看護ステーション

私たちのステーションは、柏市の北部に位置する場所にあります。近くには利根川が流れ、橋を渡ると茨城県で、田園風景が残る地域と新興住宅地があります。近年常磐新線(TX線)の開通に伴い、人口の増加がみられています。国立がんセンター東病院も比較的近くにあり地域プロジェクトに参加しやすい環境にあります。

事務所では、窓際にあるパソコンの前に座ると小鳥の鳴き声が聞こえ、木々と芝生の庭が見え心休まる場所があります。

開設は平成10年6月で平成18年に柏市から指定管理者制度となりました。

スタッフは6名です。訪問看護師は常勤4名で非常勤1名、非常勤事務1名です。利用者は小児から高齢期、特定疾患、精神疾患と幼児～103歳と幅広く利用していただいています。24時間の連絡体制をとっていますので、毎日朝と夕にはミーティングをしてケア計画や状態報告、情報の補足、情報の共有をしています。

敷地内には柏市医療公社柏市立病院があり、はみんぐ老人保健施設内に事務所があります。施設内の1階のフロアに柏市北部地域包括支援センター・居宅支援事業所・老健の相談員が在籍していますので連携の取れる環境にあります。

病院への入院やショートステイの利用の際には情報提供書や連携用紙の活用をして継続的なケアができるようにしています。

往診医との連携も顔の見える連携に努め、癌のターミナルなど在宅で最期までの希望の方などへ、安心して過ごせる環境づくりを心がけています。

訪問看護は様々な課題を抱え難しい面もありますが、地域に根ざして多くの方を支援していけるよう、社会的使命を果たすことができるようにスタッフ一同取り組んでいきたいと思ひます。

笑顔で明るく楽しい職場をモットーに、今後とも頑張っていきます。



夷隅・長生・市原地区

いこい訪問看護ステーション茂原 夏目 昌信

先日ある人から「どうして看護師になろうと思ったのですか？」と質問され、返答するのに少し戸惑ってしまいました。

それは十数年前看護学校を受験した際に「病で苦しんでいる人の支えになりたい」や「自分や家族がお世話になった看護師の姿にあこがれて」といった動機がなかったからです。

看護学科を受験する前、私は同じキャンパスにある英語学科に在籍し中学校の英語科教員免許を取得するコースを専攻していました。しかし、もともと英語が苦手だったため「私は中学生に英語を教えるにはいけない(教えられる)」と悟り、ただただ平凡な短大ライフを過ごす日々が続ききました。

そんなとき看護学生となった同級生が忙しそうに、でもいきいきと過ごしている姿が私の眼にはとても眩しく映り、ふと「自分も看護学科に入ったらそうになれるかな」と思ったのです。これが看護師を目指すこととなったきっかけで、何とも薄っぺらな動機だったと思います。

でもそのおかげで看護という職業に就き、これまで多くの方々と出会う機会を与えられました。かけがえのない物を得ることができたので、当時目標を失った私の前でキラキラと輝いていた看護学生の皆さんに感謝しなければいけませんね。

「いこい訪問看護ステーション茂原」この名称も誕生して半年が過ぎました。自分でもようやく耳や口になじんできたと思っています。子供の名前もそうですが、事業所の名称を決める時もかなり悩みました。電話番号や携帯検索で上の方に来るためには先行で始まる方が良いとか、あまり硬くない名前にしたいとか、地域に根差すためにも地名は入れたいとか…。

そんな中、私の脳裏にある聖書の言葉が浮かんできました。

詩篇 23 篇 (口語訳)

主はわたしの牧者であって、わたしには足りないことがない。
主はわたしを緑の牧場に伏させ、いこいのみぎわに伴われる。



からだや心を休めるという意味の「いこい」という言葉に魅かれ、事業所名称にすることとしました。ちなみに法人名も「株式会社 いこい」です。

訪問看護という関わりの中で、利用して下さる方々に「いこい」を感じてもらえればと思っています。

いこい訪問看護ステーション茂原は2009年4月に新規開設した独立型・24時間対応の訪問看護事業所です。管理者としてはまだまだ力不足の私ですが、頼りがいのあるスタッフとの出会いに感謝し、少しでも地域に貢献できるように努力していきますので、今後ともよろしくお願いいたします。

印旛・山武地区



訪問看護ステーションいちご 木所 律子

今年度、印旛・山武地区の会長となりました。

平成11年に開設し、気が付けば10年、心が折れそうになったこともあったけど…。利用者数50～60人といった大規模になれないステーションで経営も厳しいですが、なんとかやって来れたのはスタッフや頼りにしてくれる利用者や近隣の先生方のお陰かなと思っています。人生も半世紀過ぎるとあちこちにほころびがきて、身体は思うように動かなくなったけど、そういえば口だけは達者になっちゃったみたい…。同じ年代の所長さん方そう思いませんか???

でもそんなこと言っちゃいけない! 会長として今年も頑張っちゃいます。(笑)

印旛・山武地区では9月26日(土)に1回目の研修会を実施しました。テーマは「褥瘡ケア 予防と最近の傾向」で講師は成田赤十字病院褥瘡予防対策室 皮膚・排泄ケア認定看護師の田中深雪さんをお願いしました。今回のテーマは身近なテーマだったため連携しているケアマネさんやヘルパーさんにもお知らせし、約60名の参加がありました。

病院では在宅からの持ち込みの褥瘡も多いそうで、やはりアセスメントが重要とのことでした。それに何より皮膚の状態を良好に保つ、すなわち皮膚が本来持つ機能を十分発揮できるように、皮膚の清潔と保護を図ることが大切だそうです。



在宅でわりと行われているラップ療法の是非についてもお話いただき、最後の質疑応答ではこのラップ療法についてさかんな意見交換がなされました。

また、メール等で相談にも乗ってくださるそうで、大変心強い仲間ができましたよ。

在宅では避けることのできない褥瘡は永遠のテーマでもあり、利用者や家族の負担にもなるため、まず「作らない」ことが第一！持ち込みの褥瘡が・・・と言われないように、皮膚の観察をしっかりとしていきたいと再認識した研修会でした。

安房・君津地区



なののはな訪問看護ステーション
青木 由美



医療法人社団 慶勝会 なののはな訪問看護ステーションは、附属事業のホームヘルプサービスなののはなと共に平成7年、館山市に開所しました。

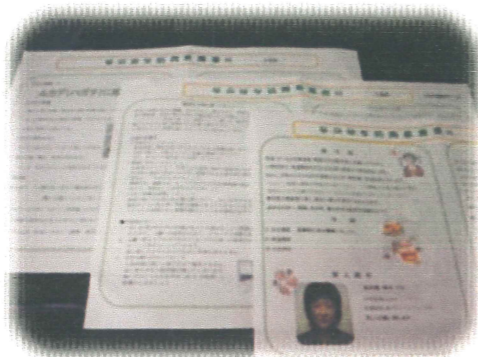
館山市は、千葉県の最南端に在ります。温暖で冬でも路地の花が美しく観光地となっています。平均訪問数は300件/月、サービス提供地域の館山市・南房総市の高齢化率は30%・35%です。ご利用者の平均年齢は、83.9歳と高齢です。

併設病院として『赤門整形外科内科』があり、医療保険は整形外科疾患の患者さまがほとんどで医療保険は1/3介護保険が2/3です。

身体痛があり動けない時、介護度5、老老介護でも住み慣れた家で安心して生活できるよう、介護する方の不安が少しでも軽減できるようケアを提供していきたいと思っています。

1回/1~2ヵ月『なののはな訪問看護便り』を発行し、季節ごとの生活の注意点などご利用者・ご家族様に情報を提供しています。

これからも、より良いケアを提供できるよう、スタッフ一同協力し合い頑張っていきます。



香取・海西地区

多古町訪問看護ステーション
大里 光枝

頑張っています！ 千葉県訪問看護支援事業

香取・海西地区部会では昨年の 厚生労働省老人保健健康推進事業のモデル事業に引き続き、今年度は千葉県看護協会 副会長 山下朱實氏(千葉県立野田看護学校校長) 同 理事 大木信子氏(匝瑳市民病院 看護部長)のご指導のもと、千葉県訪問看護事業を行っています。

*目的

訪問看護ステーションの業務を集約化・効率化する広域対応訪問看護ネットワークシステムを構築することで訪問看護サービスの安定的な供給を維持する体制を整備し、在宅療養環境の支援を充実する。

*事業内容

- 香取・海西訪問看護ネットワークセンターの設置(訪問看護利用相談等)
- 訪問看護広報活動・情報発信
- 訪問看護地域フォーラムの開催
- 地域基幹病院(国保旭中央病院)との連携システムの構築



昨年のモデル事業では地区部会員が一丸となり、基幹病院(国保旭中央病院)での訪問看護広報活動、退院にむけてのコーディネーター看護師、シンポジウム等を行いました。今年度は更なる連携に向け、基幹病院職員と訪問看護STの連携会議を2回、地域住民に訪問看護を知ってもらおうとシンポジウムを計画中です。

連携会議については先日(10/23)第1回目を行いました。基幹病院の職員は60名以上の出席となり昨年のモデル事業での効果を感じました。訪問看護導入で退院した事例を病棟から1事例紹介、その後の在宅での様子を訪問看護師から紹介し、訪問看護からもう1事例の紹介をしました。患者様への退院支援の中で、苦労したことや良かったこと、まずかったことなどが話し合われました。

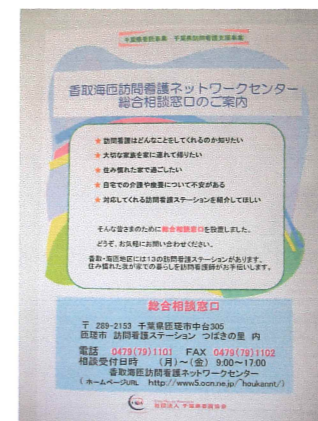
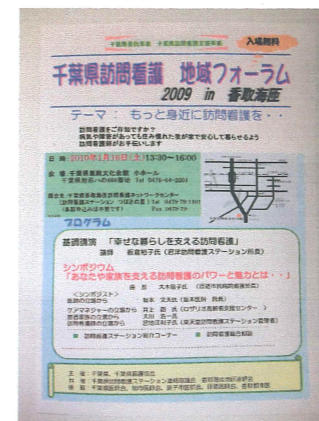
また、病院の皮膚排泄ケア認定看護師さんへのストーモトラブルの相談や、逆に訪問看護師へのケア内容の要望なども出て有意義な連携会議となりました。

大学病院並みの規模を誇る基幹病院の忙しさは図り知れませんが、その中で退院支援の充実、地域、訪問看護ステーションとの連携に対して積極的になっていることをしっかり感じとれました。訪問看護師も毎日の業務に追われる中での、事業展開ですので決して楽ではありません。

事業の様々な準備と日々の業務立ってられ、通常であれば訪問の移動時に感じられる季節の風景すら見過ごし、気づかないで通り過ぎてしまうほど精神的には余裕はありません。しかし、こうしてお互いの変化をとともに感じ、距離を縮めることでこの苦労も報われていくように感じています。

現在は地域フォーラムの準備、訪問看護ネットワークセンターの地域への周知を図ろうとチラシ・パンフレットを作成配布しています。(別紙参照)

遠隔地ですが・・・よかったら、どうぞ皆様も地域フォーラムへおいで下さいませ。



東葛南部地区

さわやか訪問看護ステーション 伊藤

わが街自慢

印旛沼から流れる新川沿いに、我がSTは位置します。八千代市は、人口約18万人のおしゃれなベッドタウン。新川は、四季折々に美しい景色を見せてくれます。春には、サイクリングロードは花吹雪で覆われます。先日は、ターミナル利用者さんと散歩に出かけ、子どもさんとここから見た花火大会の様子を聴きました。外人さんの釣り人が大きな魚を釣り上げて、2人で思わず「ワンダフル！」と声をかけたのが、ついこの間のことの様です。

ステーション自慢

さわやかSTは、地域の皆さんの力を借りて、8年前に開業させていただいたSTです。現在も「さわやか会」という会を通して、青空健康チェックや健康に関する学習会を共同開催しています。予防から看取りまで、地域の命を支える一翼を担う存在を目指して、日々がんばっています。

私達のビジョンは、
①自分の親戚や知人に、自身を持って紹介できるステーション
②地域住民、ケアマネ、医療機関に選んでいただけるステーション
になる事と掲げています。

スタッフ自慢

スタッフは、子育て中の世代からいたい終わりのスタッフまで8名。子どもの合計人数は何と19名。少子化防止に貢献しています。それぞれの子育て経験、人生経験が深みのある看護につながっているのです。

先日、ケアマネさんから「セクハラの可能性のある介護者なので、なるべく年配のNsをお願いします」と新規の依頼がありました。即座に「ごめんなさいね。うちは、皆びびちなんですよ。」と答えました。

一方では、財団のe-ラーニングを受講したり、勉強意欲のあるスタッフ達です。また、On job trainingを大切に、分からないことや知らないことを気軽に口にするようにしています。皆で高めあって、いい仕事をしていきたいと思っています。



新しい出発

我がSTは、昨年より新所長へとバトンが渡されました。新米所長にスタッフは苦労させられた事でしょう。さらに今年は、常勤Nsを増やしての再スタートを切りました。

これからも、協議会の皆様にご指導をいただきながら、ステーションとして成長していきたいと考えています。どうぞよろしく、お願いいたします。

千葉市地区

有限会社リハビリ健康社
訪問看護ステーションあすか
石橋 美知恵

管理者のひとり言・・・

訪問看護ステーションあすかは千葉市若葉区にあり、現在常勤看護師5名・非常勤看護師2名・PT4名で活動しています。

忙しい中で毎週火曜日の夕方30分を使って、スタッフ持ち回りで勉強会を開催しており「トロミ材の試食会」やPTからのリハビリ指導、事業所外研修のレクチャーなどを実施しています。毎回、笑いあり時には熱の入ったディスカッションありで、勉強会≠苦痛といった観念がなくなりつつあります。「定期的に勉強会をやりましょう」という意見はスタッフから発案されたもので、勉強会に限らず1スタッフの声にみんなが検討の姿勢を示し意見を出し合い、よりよいサービス提供を目指しています。

仮にどんなに有能な管理者がいたとしても1人では訪問看護は成り立ちません(当たり前ですが・・・)。色々な個性と感性を持った人が集まり、自己認識と思いやりがあってはじめて組織が成り立つと考えています。そして、その組織がどんどん進化していくことでサービスの質の向上につながるのではないのでしょうか。専門的な知識や技術は看護師であれば習得していても人間性や感性は個人差が大きいと思います。しかし、その人間性や感性を上手く引き出す事ができれば、ある意味、サービスに付加価値がついていることになりそうです。

そんな管理者になりたいと思って、はや10年・・・。なかなか理想には近づけないで、同じラインをウロウロしているような気がしますが、気のいいスタッフに囲まれて更なる進化を目指して頑張ろうと思っています。



最近、うれしいニュースがあったのでご紹介します。

ご利用様のN氏は2年前退院時から訪問していますが、当初は主治医から「口から食べるのはもう無理ですよ」と説明を受け、発語も不明瞭でご自分でできることにも消極的な方でした。看護師・PT・OTの訪問と何より奥様の努力の結果、少しずつご本人も前向きな発想となり、リハビリを頑張った結果、今では1日3食経口摂取、会話もスムーズになり冗談を言って私達を笑わせて下さいます。更に今回は、かねてからの目標であった御夫婦での1泊旅行が実現して、訪問時に「ケアよりも、早くこの写真を見て下さい！」とおっしゃって素敵な写真を見せていただきました。

N氏ご夫妻も非常にうれしそうなお様子でしたが、私はもっとうれしかったのでご紹介いたします。



かんぽの宿・旭にて夕食をご自分で召し上がってるN氏

バリアフリーでリフトや手すりも設置
されているバスルーム



編集後記

いつもならとくに届いているはずの広報『菜の花』。遅くなって大変申し訳ありませんでした。諸事情によりこの時期の発行となったことをお詫び申し上げます。今後とも広報『菜の花』をどうぞよろしくお願いいたします。

さて、今回の『菜の花』はいかがでしたか？3月の発行は今回が初めて。
“菜の花”にとってもふさわしい季節です。表紙は花盛りになりました♪
そして3月といえば雛祭り。言わずと知れた女の子の節句ですね。
それでは、最後にスゴイお雛様？をご紹介します。



100歳を迎えての豊富！

訪問看護ステーションゆうこうには、現在100歳（最高年齢）の利用者さんがいます。

寝たきりですが元気です。

秘訣は毎日の晩酌。加えて、同居している息子さんが子どもになったり、夫になったり、父親になったりと刺激的な毎日を過ごしているからでしょうか？

乙女時代の写真を眺めながら自分は認識しており、ちゃーちゃんと呼ばれ家族に愛されてます。

樽酒が誕生祝！あっという間に家族と本人で飲んでしまった！との事です。すごい・・・

『菜の花』はみなさんと一緒に作る会報誌です。
ご意見・ご感想・ペット自慢・ちょっとした写真
etc・・・

『菜の花』への投稿を、引き続き首を長〜くしてお待ちしております。

